

平成 30 年診療報酬改定に対する当学会からのお知らせ

「スキン-テア」褥瘡に関する危険因子の評価に加わる

平成 30 年 1 月 24 日に中央社会保険医療協議会総会の資料によると、「I-3 医療機能や患者の状態に応じた入院医療の評価」にて、「入院中の患者に対する褥瘡対策」が見直されました (<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000191963.pdf>、p. 145 参照)。その結果、入院時に行う褥瘡に関する危険因子の評価に、「スキン-テア」を加えると記載され、「皮膚の脆弱性（スキン-テアの保有、既往）」が追加となりました。

スキン-テアについては、超高齢社会の日本において、医療者のみならず、国民にスキン-テアを周知し、療養者およびその家族が安心できる環境を提供する必要性があると考え、当 日本創傷・オストミー・失禁管理学会では、2013 年より活動を始めました。これまでに、全国調査の実施、スキン-テアという創傷を周知するためのポスターの作成、さらに予防と管理のためのベストプラクティスの刊行をしております。

今回、「皮膚の脆弱性（スキン-テアの保有、既往）」という褥瘡の危険因子が追加されることに対し、「スキン-テアとは何か」、「スキン-テアという創傷をどのように観察しアセスメントするのか」、「スキン-テアの既往を確認する観察方法は何か」を、当学会が広く医療者に発信していくことが求められております。

「皮膚の脆弱性（スキン-テアの保有、既往）」を適切にアセスメントし、スキン-テアの予防と管理の実践力向上のために、『ベストプラクティス スキン-テア（皮膚裂傷）の予防と管理』をご覧ください。本書は、学会ホームページからもダウンロードができます (http://www.jwocm.org/pdf/best_practice.pdf)。

なお、ベストプラクティスのダイジェスト版を作成いたしました。医療スタッフにスキン-テアを周知するための資料としてご利用ください。

平成 30 年 3 月 14 日
一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
理事長 田中 秀子